

List of Questionnaires

(1)

(65)

MIZUNO

Questionnaire

MIZUNO

谷書

MIZUNO



履歷

一 明治三十五年 (1892) 東京帝國大學法科卒業

一 日 二十七年 (1894) 內務省参事官

一 大正元年 (1912) 貴族院議員 昭和二十年
辭任

一 日 二年 (1913) 內務次官

一 日 七年 六月 (1918) 內務大臣 同年九月退官

一 日 八年 八月 (1919) 朝鮮總督府政務總監

大正十年七月有內務大臣擔任

一 大正十一年六月 (1922) 内務大臣 日十一年九月退官

二 日十一年五月 (1923) 内務大臣 日十一年六月退官

三 昭和二年五月 (1927) 文部大臣 日三年六月退官

1. 昭和十六年十二月七日及昭和二十年九月十日

三凡テラノ友職ニ居ラス

2. 水野鍊太郎 *Rantaro Mizuno.*

3. 十一

4. 明治元年一月十日

5. 東京市

6. 五尺 ~~(長)~~ (151 cm)

7. 十一貫 ~~(重)~~ (4.2 kg)

8. 十一

9. 神奈川県大磯所山王

10. 四所

川別紙戸籍抄本、通リ

12. 昭和二十年十一月戦争犯罪容疑者トシテ指

定セラレタガテ教年前脳血管塞滞^病由性アリ其後運

動多ク不自由ヲ感ジ、又台湾^島旅行中アミ^ハ

赤痢^病、腹痛、嘔吐、疾^患ヲ来^スクシ慢性^{下痢}

症ノ状態^ヲ呈^シ且排便^時、脱肛^{アリ}、既ニ十

数年ニ身^カコシガ整復^ニ熟練者^ノ助力^ヲ必

要^トス殊^ニ老齡^ノ為^メ單独^ノ生活^堪ヘズ其^ノ為^メ

自宅療養^ヲ欲^シ出^ル知^ル許可^ヲ得^{タリ}

其他、犯罪ナシ

13. 内務大臣 文部大臣

14. 軍隊軍子 金然關係也

一大正十年 (1921) 社團法人道路改良會之長

一 日 十一年 (1922) 財團法人港灣協會之長

一 昭和四年 (1929) 財團法人東洋協會之長

(後之東洋文化協會)

一 昭和十年 (1935) 著作權審議會委員

一 日 十五年 (1940) 財團法人協同會之長

以上諸團體會長 昭和二十年 二十五年 三

凡之辭任 現在 關係也

一 昭和十七年 日本興亞同盟副總裁

(1942) 日十八年 解散 其後

22212019.18

十
シ

十
シ

十
シ

十
シ

十
シ

昭和三十三年七月号

水野鍊太郎

Rantoro Niguma



本籍

東京都 荒川区白金猿町三丁目五番地

明治三十五年五月廿七日前戸主立三郎

因リ家督相續之至ト爲ル

首吉島萬壽ト婚姻届出明治廿八年五月

於日受任

本所北新町三丁目一番地ヨリ轉籍届出昭

和廿年八月廿三日受附入籍

昭和廿年九月廿五日行移居書並ニ土地ノ名稱

変更之付キ本籍欄ヲ「荒川区白金猿町」ト更正

東京練馬区

本八番ノ番ノ原本ノ姓...

前戸主

水野立三郎

前戸主 水野立三郎

父 水野立三郎

母 尾島長男

水野鍊太郎

出生 明治三十五年五月廿七日

二六册除

東京都

石抄本ハ、籍ノ原本ト相違ハ、コトヲ認證ス

昭和廿貳年七月參日 東京都港區長 井手光治

<p>Handwritten text in vertical columns, likely a transcription or commentary on the original document.</p>		<p>Handwritten text in vertical columns, likely a transcription or commentary on the original document.</p>	
出生	父	母	出生
Handwritten name	Handwritten name	Handwritten name	Handwritten name

謄本用紙複寫甲

OGATA

Questionnaire

12 July

Attached are six Questionnaires:

~~Mizuno
Ogata
Sakurai
Shimomura
Suma
Tokutomi~~

The others are at IPS, to be
ret to this Section

RMS

Q

OGHTH

港区秘書廣尾町十七番地

緒方竹虎

A. 身分

一、一九四一年十二月七日、職務。

朝日新聞主筆

一九四五年九月二日、職務。

東久速内閣、國務大臣兼

内閣書記官長

二、姓名。

緒方竹虎 Ogata Takeo

三、別稱。

十二

四、生年月日。

一八八八年一月三十日

五、誕生地。

山形縣山形市

六、身長。

一六二 センチメートル

七、体重。

六二 キログラム

八、不具。

十二

九、現住所。

東京都港区秘書廣尾町十七

十、本心籍地。

東京都新宿区百人町三丁目三三

二、認征番号。

十二

二、犯罪逮捕前歴。

十二

三、最高公的地位。

國務大臣

B. 職歴及軍隊任歴

一四、一九三一年一月一日以後、任歴。

一九三一年一月一日朝日新聞編輯局長

一九三四年一月朝日新聞主筆

一九四三年一月朝日新聞副社長

一九四四年一月小磯米内内閣、國

務大臣兼情報局

總裁

一九四五年五月一鈴木米内内閣、

顧問

一九四五年八月一東久速内閣、國務

大臣兼内閣書記官長

記官長

C、団体関係

一五、大政翼賛会、翼賛政治会
大日本政治青年会関係。

一九四五年八月より一九四六年
一月二十六 貴族院議員

大政翼賛会 副総裁(小沢、米内)

内閣の時、時概り見下大

政翼賛会を解散ス

ハントの内命ヲ受ケテ副

総裁ニ就任シ、之ヲ解散ス

翼賛政治会 評議員

大日本政治青年会 関係ナシ

交詢社、如水会、日本乗馬協会

日本国際協会、結核豫防会、

日英協会等、各議員

以上、団体ハ秘密結社ニアラス

以上、団体ノ役員ハナリシトナシ

以上、団体ノ出版物ノ編修人ナリ

ニトナシ

一七、団体ニ対スル政治関係者。

ナシ

一八、団体ノ会費以外ノ実附金。

ナシ

一九、団体より種別賞牌等ヲ受ケタル

ナシ

有シ無シ。

二〇、a、一九三一年以降、軍官又ハ

ナシ

大政翼賛会、翼賛政治会、大

日本政治青年会代表シテ各職

ヲ引受ケタルコト、有シ無シ。

ナシ

b、一九三一年以降、軍官ト協力

シテ軍事、政治、指揮進行等

ヲ便利シタルコト、有シ無シ。

情報局長(但シ情報局長ニシテ)
情報局長(但シ情報局長ニシテ)
情報局長(但シ情報局長ニシテ)

SAKURAI

Questionnaire

答書

SECRET

答書

答 昭和十六年十二月七日三衆

議院議員在職并ニ大政翼

賛會總務(常任ニ非ズ)内ノ一

人トシテ依喩ヲ受ケ居タリ

昭和二十年九月二日三衆議

院議員在職

2.

答

サクラ井ビヨウゴロウ
櫻井兵五郎

(Hyogo 20. Sakurazai)

3.

答

本名ノ外使用シタル氏名及ビ

有名ナル氏名共ニ無シ

4. 答 明治十三年八月八日生

5. 答 石川縣鳳至郡柳田村字柳

田主ノ九十一番地

出生地ハ本籍地ニ同シ

6. 答 五尺二寸

答^{7.} 十五母貝

答^{8.} 傷痕 無シ

目印 左ノ目ノ上ニホクロ

一アリ

不具可否 腦溢血ノ為メ

現在ニ於テモ尚

歩行セントスル際中

心トリ難シ

9. 答 神奈川縣鎌倉市雪ノ下

六百二十番地

10. 答 神奈川縣鎌倉市雪ノ下

六百二十番地

川
合 本籍地役場、証明左、如シ

石川縣鳳至郡 柳田村字柳田之部 北村幸吉地

前戶主之祖父 櫻井兵五郎

十吉受附同月七日高書發送同月七日受附

昭永元年八月五日妻死之記

昭永元年八月五日妻死之記 此所為幸吉地井
上下之姪之 被賜而後同日東京市神田區戶福文小原

石川縣鳳至郡柳田村字柳田之部 北村幸吉地

昭和廿二年

石川縣鳳至郡柳田村字柳田之部 北村幸吉地

主 戶

亡父 源次長男

櫻井兵五郎

昭永元年八月八日 日生

年 月 日生

年 月 日生

年 月 日生

12.

答

昭和二十年十二月四日宿痾二

加フルニ発熱四十度肺炎重態

ニテ臥床中、外務省終戦連

絡中央事務局戦争犯罪

事務局ノ中村公使ヨリ電話

ニテ通告ヲ受ケ其心得ニ付

新報社

注意ヲ受ケタ

其譯ハ 戦争犯罪容疑ナ

リトノコトデアツタ

13. 答 衆議院議員永年在職

以爲之 昭和十五年勲三等

叙 瑞寶章ヲ賜ツタ

5

終戦五ヶ月前鈴木内閣成立
シ其國務大臣ニ任ゼラレ昭和
二十年四月後三位ニ叙セラレタ
（終戦直後辭任シタ）

件
答 兵役関係更ニ無シ

昭和六年一月一日衆議院議員在職

開戦五ヶ月後、昭和十七年五月一日ヨリ、今年九月二十六日迄、約五ヶ月間、ビルマ派遣軍、第十五軍、自陸軍、事務、囑託トシテ、ラングーンニ滞在シタ、軍務ニハ一切関係無ク、民政ノ囑託ニモトヨリ、民主ナリ

日本夕イ。プライン夕イ株式会社

取締役會長

白雲様ホテル相談役

京都工作機械株式会社取

締役會長

小嶋機械株式会社取締役

會長

興亞礦業株式會社取締役
會長

自分關係セル事業業公平和

産業業ニシテ軍閥ニ對スル役

自無ク亦政治上ニ於テ三十年

衆議院議員在職約二十三年

間)徹底徹尾政黨主義我議會

政治家ヲ以テ終始之自由主義ハ
夢ニモ忘レザリシ條デアツタ

尚右諸會社軍役關係ハ白雲
橋ホテルヲ除クノ外何レモ皆日
本タイ。アライター會社ノ投資ノ代
表デアツタ爲日本タイ。アライタ
ー、會長辭任ヲ決意シタ後

何レモ昭和十四年ヨリ昭十六年
未迄ニ辭任シテシマツタソレ
以テ未關係ハ無ク

15
答 習英贊會ノ公會及地方會

東京支部ノ創立者、組織者
ニ非ズ、無關係ナリ

大日本政治會ノ會員ニシテ創立
委員ノ一人ナリ

其他各團體、支部、組合、組織
ニ關係無ク、特別ノ事務ノ編
輯ヲ爲シタルコトナシ

16.
答 政黨ハ、民政黨、翼政會

大日本政治會ノ會員デアツタ
組合ハ關係無シ

協會ハ大日本文明協會、帝
國發明協會ノ會員デアツタ

兄弟商會ハ無シ

學會ハ國策研究會、會
員デアツタ



政治ノ學會ハ 無シ

軍ノ學會ハ 無シ

愛國ノ學會ハ 無シ

博士ノ學會ハ 無シ

教養良ノ學會ハ 「道會」(他ニ

人の道の會)ナルモノアルモ其上全

ク異ナレリ)ノ會ヲ負テアツタ

道會トハ日本クリスト教ノ一派
デ、松村汝石ト云ク教師ノ設立
セルモノ自今、妻ヌズモ其會
員デアリ、自今等ノ結婚ハ松
村教師夫妻ノ媒メニ依リ其友
ハ同教會堂ニ行ハレタ

運動學會ハ 無シ

右ノ内創立委員ノ一人ト記セル
大日本政治會ノ外ハ全部創立
者デモ、組織者デモ、無ク且ツ
編輯事務力ニ關係シタコトハ全
然無ク

17
答 妻スズガ前記教養會ノ

道會負テアツタ外、コノ問ニ
談当スル家族ハ一人モ無イ

其女スズハ昭和十八年十一月死亡シタ

18.
答 御里ノ小學校建築未費

ニ金六萬圓寄附シタ外コノ

問ニ談当スル寄附金モ土地モ無イ

19. 答 コノ尚ニ談当スルコトハ一モ無イ

20. 答 関係シタコト更ニ無シ

21. 答 編輯ハ一回モ無シ

演説ハ議會日ハ、委女員會ニ於
ケル質問五、六回及豫養委

負長トシテノ報不絶、自分ノ
属スル政黨ノ會及同志送
岸ノ應援演說數回アルト
思フモ其ノ年月日及聽家
數ノ記憶呼ビ起シ難シ

22
答 全然無シ

以上



昭和二十二年七月二日

櫻井兵五郎

(Hogozo, Sakuraz)

SHIMOMURA

Questionnaire

A

貴族院議員

下村 宏 シモムラ ヒロシ

海南 カイナン

一八七五年 三月十二日

和歌山市

一メートル六六

四九キロ八

十シ テシ 東京都大田区田園都市三丁目三十三

和歌山市 堀崎町 四十一

十シ

十シ

十シ

鈴木内閣ノ國務大臣

(一八五八)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

(一五二四)

14

東京帝國大學法科卒業 (一九二八年)

逓信省貯金局長 (一九二四—二五年)

台灣總督府民政長官 (一九二五—二六年)

朝日社専務取締役 後副社長 (一九二二—二三年)

一九三六年二月二十六日予件トシテ入軍部

及乱ヨリ廣田内閣へ入閣リ拒マシテ退社

貴族院議員 (一九三七—四六年)

陸内閣ノ國務大臣兼情報局長 (一九四五年)

大改進黨員 会長

日本改進黨員 会長

日本放送協会

16

会長

日本紳士月会

(オリエント・エクスプレス)

カネモトカイ

棋道新聞会

(基幹特等)

副会長

司景協会

四七律民会

(四七律民会)

程り谷ゴルフクラブ

顧問

M.T.S.

ミツシヨウ

J.T.B.

ジャパン・ツアーリストビューロー

学生有

学生有

産業組合中央会

理事長

社会立法協会

経産省

④ 国際連盟協会

④ 日本中央文化連盟

④ 厚生協会

④ 救済協会

④ 優生協会

④ 婦民協会

④ 協同会

④ 茶業研究会

④ 通信社

④ 法協会

(資本準備金) 100,000,000円

圖書館協會
 函院文化會
 人口問題研究會

委員

許嘉慎副委員
 官易保陸委員
 年虛部次並運角會
 價格委員
 教育審議會
 義會制之審議會
 度量衡委員會
 國語審議會
 國際銀安委員會

④ 立公 親善委員会

拓植委員会

朝鮮親善会

台湾ソング

日本ソング

台湾朝鮮在住者 高橋 富子 義会

東洋親善会

愛友会 (見巻)

結核予防会

同人会

歌人親善会

飯一校会

インスチテート ヨフバミフキツリソシエーション

香野

校長

法政士

東京商業学校

津木師

早稲田大

中央大

財政系
合同

法政大

東京高専大

三 昭和十六日

神戸商業大

関西大

A 十

1817

長山愛生園

美乃

19

力十

5

下村海南博士著書目録

書名	発行年別	定 價	發 行 所
陰をて本(巻)肉茶茶(巻)集問題茶(巻)地話潮問題棒(巻)本談舟本來馬道へ談集路筒り記ム	大正10年	1.40圓	聚芳閣
蕉の葉	" 11年	2.80 "	未出評
蕉の葉	" 14年	3.00 "	日 本
蕉の葉	" 15年	1.20 "	" "
蕉の葉	" 15年	1.80 "	" "
蕉の葉	昭和2年	2.30 "	博 文 館
蕉の葉	" 2年	2.00 "	" "
蕉の葉	" 3年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 3年	1.80 "	日 本 評 論 社
蕉の葉	" 3年	2.00 "	日 本 評 論 社
蕉の葉	" 3年	0.50 "	日 本 評 論 社
蕉の葉	" 4年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 4年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 4年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 4年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 4年	1.60 "	" "
蕉の葉	" 4年	0.50 "	" "
蕉の葉	" 5年	1.50 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 5年	1.20 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 6年	1.20 "	瞭 文 堂
蕉の葉	" 6年	1.80 "	四 條 書 房
蕉の葉	" 7年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 7年	1.00 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 7年	0.50 "	" "
蕉の葉	" 7年	1.80 "	四 條 書 房
蕉の葉	" 8年	1.20 "	日 本 評 論 社
蕉の葉	" 8年	1.80 "	日 本 評 論 社
蕉の葉	" 8年	1.00 "	" "
蕉の葉	" 9年	1.50 "	日 本 評 論 社
蕉の葉	" 9年	1.00 "	日 朝 四
蕉の葉	" 9年	1.60 "	" "
蕉の葉	" 10年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 10年	1.20 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 10年	2.00 "	日 朝 四
蕉の葉	" 11年	1.50 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 11年	2.80 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 11年	1.80 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 12年	1.30 "	" "
蕉の葉	" 12年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 12年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 12年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 13年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 14年	.30 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 14年	.25 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 14年	.25 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 14年	1.80 "	朝 日 新 聞 社
蕉の葉	" 15年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 15年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 16年	0.78 "	" "
蕉の葉	" 16年	1.80 "	" "
蕉の葉	" 16年	1.90 "	潮 人 櫻 潮 日 新
蕉の葉	" 17年	3.00 "	潮 人 櫻 潮 日 新
蕉の葉	" 17年	3.00 "	潮 人 櫻 潮 日 新
蕉の葉	" 18年	2.00 "	潮 人 櫻 潮 日 新
蕉の葉	" 18年	1.30 "	潮 人 櫻 潮 日 新

【絶版】 財政學・貯蓄機關論・富と貯蓄・貯蓄と國民性・郵便法規要義・南紀人材論

旅行

SUMMA

Questionnaire

1871 和 十四年十月十一日 任外務省情報部長
 " 十五年十二月六日 外務省情報部
 廣止二時情報部長廣友
 " 任特命全權公使
 西班牙國駐在波多
 " 廿一年五月十一日 任原職免官

軍部 皇 陸 海 空

- 15. 無
- 16. 西班牙國 REUS 市 FORTUNY 博物館
 館長 鑄造 長 一任也。 (1943年)
 西班牙國 MADRID 市 美術協會
 (CIRCVLO DE BELLAS ARTES) 名譽會員
 = 選 一任也 (1944年)
- 17. 無
- 18. 無
- 19. 無
- 20. (a) 無
 (b) 無

~~Attachment (B)~~

E. WRITINGS AND SPEECHES

21,

WRITINGS:

1. America and Americans:

Written with the object of making things American be understood by the people in Japan.

Date published: 1 April 1941.

Publisher: Yoshitaka Takagi

Approximate Volume Published: 10,000

I. 米國及米國人

昭和十一年四月一日發行
講談社 一萬部

2. Where Japan Stands:

Explaining China Incident and debating necessity of the Sino-Japanese co-operation.

Date published: 9 June 1940.

Publisher: Yoshichika Nakatsuchi

Approximate Volume Published: 10,500

II. 日本の立場

昭和十五年六月九日發行
研究社 一萬五千部

SPEECHES:

Subject	Date	Name of Organizations Sponsored
1. The China Affair	22 Oct. 1937	The Foreign Policy Association, Cleveland, Ohio.
2. The Origin of the Conflict	ditto	The Foreign Policy Council, Cleveland, Ohio.
3. Facts and Factors in East Asia	10 Nov. 1937	The Carolina Political Union, University of North Carolina.
4. What Japan wants in China	10 Dec. 1937	The Bucknell University Christian Association, Lewisburg, Pennsylvania.
5. Where Japan Stands	12 Dec. 1937	The Economic Club of Detroit, Michigan.
6. Japan's Course	16 Dec. 1937	The Washington University Y.M.C.A. and Y.W.C.A., St. Louis, Missouri.
7. Notes on the Situation in East Asia	10 Dec. 1937	Bucknell University.

- | | | | |
|-----|------------------------------------|---------------|--|
| 8. | The Conflict in the Far East | 2 Feb. 1938 | The Rotary Club, Hotel Alexander, Hagerstown, Maryland. |
| 9. | Japanese-American Trade | 12 Mar. 1938 | The 29th Annual Banquet of the American Society of Los Angeles, Aboard M.S. "Chichibu Maru". |
| 10. | Japan's struggle for Security | 12 May 1938 | The Earlham Institute of Foreign Affairs, Earlham College, Richmond, Indiana. |
| 11. | Economic Conditions in Japan | 1 June 1938 | The sixteenth Meeting of the Academy of World Economics, in the National Council Chamber of the Chamber of Commerce of the United States, Washington, D.C. |
| 12. | But One Recourse | 23 June 1938 | The Institute of International Relations, Pennsylvania State College, State College, Pennsylvania. |
| 13. | The Home Front in Japan | 13 Sept. 1938 | The Rotary Club of Cumberland Maryland. |
| 14. | The Japanese Pavilion | 18 Oct. 1938 | The Occasion of Eaying the Corner-stone at the World's Fair, New York. |
| 15. | The Changing East | 14 Dec. 1938 | The University of Maryland, College Park. |
| 16. | Along view of the East | 3 Mar. 1939 | The "Japan Night" Program, International Students' House, Philadelphia, Pa. |
| 17. | Reconstruction in Asia | 6 Mar. 1939 | The Teachers Association of Portsmouth, Ohio. |
| 18. | New Order in East Asia | April 1939 | Published in the "Harvard Guardian". |
| 19. | The Recent International Situation | Nov. 1939 | Tokyo Imperial University, Tokyo. |
| 20. | The Recent International Situation | Mar. 1940 | Kyoto Imperial University, Kyoto. |
| 21. | The Explanation of Current Events | Mar. 1940 | Broadcast from J.O.A.K. |

- | | | | |
|-----|------------------------------------|------------|---|
| 22. | The Recent International Situation | Mar. 1940 | At the Osaka auditorium, Osaka. |
| | ditto | May, 1940 | The Chamber of Commerce and Industry in Nagoya. |
| 23. | The Explanation of Current Events | June 1940 | The Broadcast from J.O.A.K. |
| 24. | The Recent International Situation | Aug. 1940 | Sapporo |
| 25. | ditto | " " | The 2nd Commercial School in Sendai. |
| 26. | ditto | Sept. 1940 | At the auditorium of Tsu City. |
| 27. | ditto | ditto | The Nagoya Asahi Press. |
| 28. | ditto | Oct. 1940 | Yuzawa-machi Akita Pref. |

22

無心.

23

須 麓 了 尔 去 部
來 來 却 於 並 區 孰 窪 = 丁 月 - 01.

TOKUTOMI

Questionnaire

(TORUTOMI)

A.

1. 昭和十六年十二月七日—毎日新聞社社賓(社賓トハ同社ヨリ賓客ノ禮遇ヲ受ケ自由ノ立場ニ於テ執筆スルモノ、
most respected contributing editorト解スベキ Unigye
positionナリ)

昭和二十年九月二日—之ヨリ先、同年八月十五日終戦ト共ニ
一切ノ職務ヲ自発的ニ辞シ、当時ハ既ニ社會ト交渉ヲ
絶テ専ラ謹慎中デアツタ。

2. 氏名、 德富猪一郎

3. 有名ナル氏名 德富蘇峰ソホ(「蘇峰」ハ號 Pen-name)

4. 出生、 文久三年—1863—一月二十五日

5. 本籍地 熊本市

出生地 熊本縣上益城郡杉堂村

6. 身長 約五尺三寸

7. 体重 約十六貫

8. 傷痕 右下腹部ニ曾テ盲腸炎開腹手術ノ痕アリ、

目印 重厚雄偉ノ風貌

身体ニ不具不全ノ点ナシ、

9. 現住地 熱海市伊豆山^{イヌサン}押出二九番地

10. 住居地 (a) 熱海市

(b) 山梨縣山中湖畔旭日丘

11. 身分證明ノ様式ト番号、 無シ

12. 犯罪事項、 無シ

13. 現在迄ノ最高階級

(a) 貴族院議員

(b) 帝國學士院會員

(c) 帝國藝術院會員

(d) 文化勳章

B. 軍隊及ビ業務ノ年代記録

14. 業務ノ年代記録

國民新聞社長兼主筆——明治三十三年(1860)三月自ラ國民

新聞ヲ創刊シテ以來昭和四年(1929)一月迄其ノ地位ニ在リ

内務省勅任参事官——明治三十年(1867)新聞社長ノ終任官

教ヶ月ニテ退官

毎日新聞社賓——昭和四年四月應聘昭和二十年八月辞ス

歴史著述—大正七年(一九一八)ヨリ大著「近世日本国民史」

*Modern History of Japanese People*ノ稿ヲ起シ昭和

二十年終戦ノ時迄二十八年間ニ九十餘巻ヲ刊行ス、

軍閥關係ノ役目、一切無シ

C. 團體ノ會員

15. 翼賛會、大日本政治會ノ創立、組織、及び事務ニ一切關係

シタルコトナシ、

16. 純然タル新聞記者及び歴史家タル職分ニ專念シ、黨、組
合、其他團體ニハ關係セザルヲ本領トセリ、タゞ日本最高
ノ學會タル「帝國學士院」ノ會員、及び藝能ノ最高
府タル「帝國藝術院」ノ會員ニ推薦セラレタル外、大日
本新聞協會ノ顧問、會長、及び「大日本言論報

並ニ「大日本文学報国令」

及「文壇」

國會ノ會長ニ、何レモ日本ニ於ケル新聞界ノ著名ナル長走トシテ豫テ病中ニモ拘ラス名譽的ニ推戴

サレタルコトアルノミ。

17. 家族中 15 16 ニ関聯アル職務者ナシ、

18. 金銭土地等ノ寄附ハ授受共ニナシ、

19. 本項ニ該当スル事歴ナシ、

D. 其ノ他ノ職務ノ記録

20. 本項ニ該当スル事歴ナシ、

E. 編輯ト演説

21. 此ノ期間中ニ著書ヲ出版シタルコトアルモ、自ラ編輯ニ当リ

タルコトナシ、又々新聞社教育會方面ヨリノ依頼ニテ主

ニ歴史的ノ講演—lecture—ヲナシタルコトアルモ今一々之

ヲ記憶セズ、

F、團結職務

22、該当ノ事歴ナシ

以上